

区分・種別	重要文化財(工芸品)		
名称	ときんおおまえだて 鍍金大前立 3種		
所在地	今治市大三島町宮浦		
所有者	大山祇神社	管理団体	
指定年月日	明治34年3月27日		
解説	<p>この前立は、^{くわがた}鍬形ともいい、威容を整えるために兜の前に立てた^{たてもの}立物である。平安時代に既に行われたことは^{ばんだいなごんえことば}伴大納言絵詞などによって知られるが、この3種のように長大な前立が作られたのは鎌倉時代以後で、南北朝時代に盛行したものである。</p> <p>3種はいずれも銅鍍金で、高さはそれぞれ77.0cm、70.7cm、62.7cmあって、南北朝時代の製作とみられている。特にこのうち一番大きい前立は、現存するもののうち最大である。</p> <p>それぞれ左右鍬形の中ほどに小穴があるが、これは^{ひも}紐を通して兜の^{こうしょうかん}後勝鑲に結び、つりを持たせるためのものである。</p>		

